

《令和5年度大洲市一般会計予算》

◆保育所等ICT化推進事業

**説明** 保育所等の保育に関する記録や子供の登降園管理等の業務をICT化することにより、保育士の業務負担の軽減を図る。

**問** タブレット72台の集中管理システムを導入することで、どのような効果が期待できるのか。

**答** 不定期に更新される機能のバージョンアップや不正使用の防止など、同時期にすべての端末を操作しなければならないなど、市内11施設におけるタブレットの管理に要する業務量が増大している。これらに対し、市役所からリモートで一元管理できるシステムの導入により効率化が図られる。

**問** タブレットを活用して、ICカードでの読み込みによる出欠確認や体調管理なども可能なのか。

**答** 現在、登降園管理システムを2月から運用開始し、各施設においてQRコードを読み込むことで子供たちの登降園時間や出欠の把握ができる。



◆児童生徒用木製机椅子整備事業

**説明** 小・中学校の机や椅子の約7割が購入から20年以上経過し、経年劣化による破損や、サイズが一回り小さい旧JIS規格であるため、A4判サイズの教科書やタブレットを使用した授業に支障をきたすことから、計画的に更新を行う経費として2,430万円を計上する。

**問** 児童・生徒が座りやすいデザインや成長に合った高さ調整は可能なのか。

**答** 業者選定はプロポーザル方式を予定しており、机や椅子の仕様は、サイズや重さ、高さ調整や強度など基本的な指標を定め、デザインについても提案いただく形を考えている。また、現在使用している机や椅子と同程度の調整が可能となる仕様

を想定している。

**問** 既製品であれば、もっと安価であると思うが、木製とする意図や経緯は。

**答** 以前から校長会を通じて教育現場からの要望を受けており、協議・検討する中で、森林環境譲与税の活用ができること、さらには、桝山教育振興会からのご支援もいただけることになり、財源的にも既製品より有利な形で整備することが可能となった。



**要望** 成長期でもある子供たちの体形にできるだ

け対応できるよう、十分に配慮していただきたい。

◆令和5年度大洲市病院事業会計

**説明** 令和5年度の業務予定量は、年間患者数を111,117人（入院患者30,927人、外来患者80,190人）と見込み、前年度比2.4%増を想定している。病院事業収益は35億1,410万3千円、前年度当初予算比1.6%増、病院事業費用は34億9,979万9千円、前年度比1.5%増となる。

**問** 一時的な資金不足による借入金も考えていると説明があったが、病院経営についてどう見ているか。

**答** コロナウイルス関係の歳入予算が不透明なため予算にはまだ反映できていないが、来年度においても補填される見込みである。引き続き、院内でも経営強化に取り組み、できるかぎり一時借入れをしないよう努めることとしている。

**問** コロナ禍を経て、国としても地域医療体制の維持が非常に重要との認識に変化してきたが、どう受け止めているか。

**答** 今後、経営強化プランを策定することになっているが、その中で、新型コロナウイルス感染症などは第一義的に公立病院が受け入れるという位置付けがされている。今後の体制としては、引き続きそうした感染症の受け入れも継続するとともに、経営の強化も図っていきたい。